

獨協医学会

会 長 稲 葉 憲 之 (獨協医科大学学長)

運 営 委 員

簀持 淳*	石光 俊彦**	秋山 一文	阿部 七郎	石井 芳樹
板垣 昭代	片桐 一元	桑島 成子	小嶋 英史	小島 勝
小林 哲	坂本 秀一	杉本 博之	白瀧 博通	千種 雄一
西山 緑	林 啓太朗	濱口 眞輔	春木 宏介	宮本 雅之
室久 俊光	緑川由紀夫			

*委員長 **副委員長

Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

石光 俊彦*	千種 雄一**	秋山 一文	阿部 七郎
石井 芳樹	小島 勝	濱口 眞輔	宮本 雅之

*委員長 **副委員長

編集事務員

鯉沼 行子

編 集 後 記

Dokkyo Journal of Medical Sciences Vol. 43, No.3 (獨協医学会雑誌 第43巻3号)として、「臓器リハビリテーションの最前線」と題した特集号をお届けいたします。

リハビリテーションの英語である「rehabilitation」の「re」は「再び」の意が、「habilitation」には「資格を与えられること」の意があり、両者が一つの語になって「復職、復権、名誉回復」を意味します(世界大百科事典第2版より引用)。一般医学的には、「精神障害、身体障害あるいは慢性疾患を有する患者に対して、可能な限り早期に身体的、精神的、社会的、経済的問題を回復させる作業過程」、または、「事故・疾病で後遺症が残存した者などを対象に、その能力を回復させるために行う訓練や療法」と定義されています。平成27年の厚生労働省「高齢者の地域における新たなリハビリテーションの在り方検討会」の報告書の一文を以下に抜粋しますが、「生活機能の低下した高齢者に対しては、単に身体機能の改善だけを目指すのではなく、リハビリテーションの理念を踏まえて、「心身機能」「活動」「参加」のそれぞれの要素にバランスよく働きかけ、日常生活の活動を高め、家庭や地域・社会での役割を果たすことで生きがいや自己実現を支援し、QOLの向上を目指すことが重要である。」と記されています。すなわち、これからの高齢化社会に向けて、リハビリテーションは重要な医療と位置付けられているのです。その現状を踏まえて、獨協医学会運営委員会では、今回、リハビリテーションの取り組みに関して、造詣が深い先生方から、「臓器・疾患別」に焦点を当ててまとめて下さった総説をご寄稿いただきました。

まず、当院で心臓リハビリテーション(心リハ)に取り組んでいらっしゃる中島敏明先生からは心臓疾患、神経内科の門脇太郎先生からは変性疾患・パーキンソン病、呼吸器アレルギー科の知花和行先生からは呼吸器疾患、膠原病・リウマチ内科の前澤玲華先生からは関節リウマチ、耳鼻科の後藤一貴先生からは摂食嚥下障害を呈する疾患、排泄機能センターの山西友典先生からは排泄機能疾患、リハビリテーション科の古市照人先生からは運動器疾患と、各々の先生がご専門とされる最新の知見が本書にはたっぷりと記されております。

また、小児においては、「獲得した心身機能の喪失を回復させるのではなく、年齢相応の標準的な生活を送れるように支援することもリハビリテーションである。」と、小児科の今高城治先生が示されており、このような思いが至らなかった自分を恥ずかしいと思いつつ、拝読いたしました。

さらに、看護部の方々も積極的にリハビリテーションに関わっておられ、岸田さな江さんからはがん患者、とくに「がんサバイバー」とされる患者さんの生活機能改善について、小沼真由美さんからは歩行に重要な下肢疾患に対するフットケアに関して、ご寄稿頂きました。本特集が読者の裨益となりますよう期待しております。

私ごとながら、実母の認知症を目の当たりにして、生活機能維持、心身機能回復の重要性を身に染みて感じております。皆様も、本書の「心身を含めた機能回復や向上」の意義について語り合っていただきたいと存じております。

(濱口眞輔)

2016年10月20日印刷

第43巻 第3号

2016年10月25日発行

編集発行人

獨協医学会

稲 葉 憲 之

発行所

獨協医学会

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
獨協医科大学

Tel (0282) 86-1111 (内線2009)

製 作

教 文 堂

〒162-0804 東京都新宿区中里町27

Tel (03) 3260-6136